

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立大谷小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒988-0273
気仙沼市本吉町三島28

E-mail oya-sho@kesenuma.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 89 名 女子 97 名 合計 186 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

テーマ	地域を見つめ、わかったことや思いを表現しよう～人々や自然とのふれあいから～		
1 本校のESDでめざすもの			
(1) ESDのねらい			
地域の人々や自然とのふれ合いを通して、課題を見つけ、粘り強く、主体的に追究しながら、自己の生き方に生かしていくことができる児童を育てる。			
(2) ESDで育てたい資質・能力			
・多面的、総合的に考える力		・コミュニケーションを行う力	
・つながりを尊重する態度		・進んで参加する態度	
※めざす児童像			
学年	地域を見つめる姿	地域を（で）調べる姿	よさを伝え合う姿
低	自分とかかわりのある身近な人や自然などに興味・関心をもつ子ども	事象との出会いから、見つけたり、比べたり、例えたりしながら気付く子ども	身近な人に対し、自分との関わりや気付いたことなどを言葉や絵で表す子ども
中	人や自然とのふれ合いを通して、自ら探究したい課題を見つげる子ども	見聞や体験を通して情報を集めたり、整理・分析したりまとめたりする子ども	調べたことを基に、生活に生かそうと考えたことを筋道立てて発表する子ども
高	地域社会の変化をとらえ、未来に向けて解決すべき課題に気付く子ども	地域の思いや願いを感じながら広く情報を収集し、課題を解決しようとする子ども	自己の考えの根拠を明らかにしながら多様な方法で発信する子ども
(3) 本校ESDの特長			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携が密接で、虎舞の体験や近在の漁師の方や地域の復興に取り組んでいる方の講話を聞く活動など、貴重な体験学習を行っている。 ・小中学校、幼稚園、公民館が比較的近いところに集中して存在し、合同での防災学習や協働での稲作学習など、連携した活動を行っている。 			
2 今年度のESDの概要			
(1) 実践の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然、産業、文化、福祉等を視点に、地域を見つめ、調べ、そのよさを伝え合う活動に取り組んでいる。 ・生活科と総合的な学習の時間を中心に、関連する教科・領域で横断的に取り組んでいる。 ・保護者や地域内外の人材を広く活用している。 ・主幹教諭（防災主幹）を中心とした防災教育に関するプログラム作り及びその実践に取り組んでいる。 			
《 ESDプログラム 》			
学年	教科	単元名 など	
1	生活	【地域】がっこうだいすき…学校周辺の交通安全・防災の視点からの観察	
		【地域】あきのおもちや だいしゅうごう…葉や木の実を使ったおもちや作り	
2	総合的な学習	【地域】わたしのまちをたんけんしよう…身近な地域の方や場所の調べ学習	
		【文化】わたしのまち大すき～平磯虎舞～…歴史や太鼓の打ち方などの体験	
3	総合的な学習	【地域】地域の名人に学ぼう…学区内の名人の技術や知識の体験的な学び	
		【福祉】まちのお年寄りや仲間と仲よくなるよう…疑似体験や、高齢者との交流	
4	総合的な学習	【防災】大谷の防災について考えよう…校舎内の危険・避難経路予測	
		【環境】エコプロジェクト～今、私たちにできること…自分たちができるエコ活動	
5	総合的な学習	【福祉】障害について考えよう…キャップハンディ体験を基にした調べ学習	
		【防災】大谷の防災について考えよう…校地内の危険・避難経路予測	
6	総合的な学習	【環境】大谷の環境について考えよう…稲作、生き物調べ、水質調査での体験・観察	
		【防災】大谷の防災について考えよう…日常的にできる防災・減災法の啓発活動	
全校	行事	【地域】探ろうふるさと、考えよう未来の大谷…地域の漁師さんや里海づくり委員会の方の講話	
		【地域】大谷から世界へ発信！…大谷の良さを中心とした新聞づくり（国語科との関連）	
		【防災】大谷の防災について考えよう…これからの町づくりに生かすための地域の防災の歴史	
		【防災】避難訓練（授業時・休憩時・下校時・緊急地震速報時など）	
		【地域】稲作体験（田植え・稲刈りなど）※H27は、5年生が実施	

(2) 各校ESDの課題に向けて、今年度、特に工夫・改善したこと

- ・避難訓練では、下校時（スクールバスを含む）、清掃中、緊急地震速報を取り入れた訓練、緊急時の保護者引き渡し訓練、幼小中が連携した地域ぐるみの避難訓練など、多様な形態での訓練を行った。
- ・6年生の総合的な学習の時間では、地域の自然環境や産業の変化に着目し、復興と関連づけた内容で実施した。今年度は大谷里海づくり検討委員会の方からお話を聞き、その思いに直接触れることができた。
- ・防災学習を総合的な学習に発達段階に応じて取り入れ、身近なところから防災について考える機会となった。

3 「ポストESDとしてのGAP(グローバル・アクション・プログラム)の推進」に向けての成果と課題

(1) ねらい・目的の視点から

① 成果

- ・地域の方たちとの関わりが密接で、各学年に定着している体験活動が複数ある。児童にも活動内容が浸透しており、各学年の活動を楽しんでいる。

② 課題

- ・体験活動を中心とした取組が多く、各学年ともに受動的なカリキュラムになってしまいがちである。「追究し、自己の生き方に生かす」カリキュラム作りが急務である。

(2) カリキュラム・マネジメント(指導計画・内容・方法、連携・交流等)の視点から

① 成果

- ・地域との連携が密接で、虎舞の体験や、近在の漁師の方や地域の復興に取り組んでいる方の講話を聞く活動など、貴重な体験学習を行うことができています。
- ・地域のデイサービスセンターとの交流を行っており、打合せを重ねて内容を計画し、児童の思いを生かした交流を行っている。

② 課題

- ・各学年でのテーマを明確にし、課題意識を明確にした主体的な交流をしていく必要がある。

(3) アクティブラーニング(主体的・探究的・協働的な学習)の視点から

① 成果

- ・各学年の体験学習が定着して、それぞれの学年において、意欲的に取り組んでいる。

② 課題

- ・探究したいことについて、自分たちで興味関心を広げていくことはなかなかできていない。

(4) 評価(育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等)の視点から

① 成果

- ・「進んで参加する態度」については、地域の伝統芸能や、特徴的な産業への理解が進み、体験学習に意欲的に取り組んでいる。

② 課題

- ・「コミュニケーションを行う力」については、身近な地域について学んだことや自身が望む地域の姿をイメージして、発信していく活動に更なる工夫が必要である。

4 今後のESDの方向性 ～21世紀型能力の育成等～

(1) 漁業を中心とした海での営みを取り入れた単元構成を行う。

本来大谷地域は豊かな海の恵みを受けて生活を営んできており、震災前は、わかめの養殖を体験したり、浜辺での観察・清掃活動を行ったりと密接に海と関わってきた。震災以降、それらの活動を行うことはできておらず、児童が未来の大谷に豊かな海を思い浮かべても、それに関わる体験活動はできていない。地域には里海の復興を目指す方たちもおられ、お話を聞くことができています。連携を図って、海での活動への足掛かりにしていきたい。

(2) 探究型の学習に向けた教材開発を行う。

体験活動が定着した反面、体験活動を行うことのみが重視される傾向にある。指導者が、各学年のテーマにおける探究的な活動を展開することをもっと意識しなければならない。今年度までの実践をしっかりと振り返りながら、改善を図っていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）